

第13回 災害対策研修会 開催報告レポート

事務局 災害対策部

本会事務局災害対策部では、第13回災害対策研修会を2024年5月18日（土）に開催しました。テーマは「令和6年能登半島地震 災害支援活動報告」で、神奈川DWAT（災害派遣福祉チーム）から2名の部員が石川県輪島市での支援経験を報告しました。

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、要配慮者支援体制が課題となりました。特に中能登、奥能登エリアに該当する市町村では、高齢化率が50%を超える地域もあり、持続的な支援が不可欠です。神奈川県では災害時の福祉支援として神奈川DWATが設置されており、本会も積極的に参加しています。本研修会では、被災地の状況や災害リハビリテーション支援活動から見てきた課題を共有し、今後に生かしていくための検討を行いました。具体的には、避難所の整備状況や運営体制の見直し、避難所と福祉避難所の連携強化、災害時の保健医療と福祉の情報共有および情報連携などが挙げられます。

講師の西谷氏と前田氏は、日々刻々と変化する状況に対応するための臨機応変な心構えや、地域性を理解し配慮した活動、地域主導の支援の重要性を強調しました。また、行政の負担軽減や要配慮者の把握など、平時から必要な支援体制も重要な課題となっていました。これらの視点を踏まえ、現地のニーズに合った最適な支援を提供することが求められます。

自由討議では、「災害支援活動の経験からどのような準備をすべきか、地域でどのような支援ができるか」というテーマで活発な意見交換が行われました。作業療法士やさまざまな職種の立場から、平時からの準備や行政との連携方法、職場内での周りのスタッフへの理解促進などについて具体的な内容も確認しました。これらの討議を通じて、災害対策として平時から取り組むべき内容について、具体的な方向性や改善点も明確になりました。

さらに、本研修会では具体的な事例や経験を共有し、参加者全員が災害対策の重要性を改めて認識することができたのではないかと思います。理学療法士として災害時に貢献する方法に関しても深く考える機会となりました。

今後も本会災害対策部では、平時から災害時の要配慮者支援ネットワークづくりに取り組み、地域社会に貢献していきます。研修会を通じて、災害時の要配慮者支援の重要性を再認識し、取り組みをさらに強化していきます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

